

FL-net Ver3.00 設定ツール 操作マニュアル

目 次

目次	1
1章 はじめに	2
2章 セットアップ方法	3
2.1 事前準備	3
2.2 ネットワークの設定	7
3章 操作説明	8
3.1 最初にやること	8
3.1.1 設定ツールの起動	8
3.1.2 動作確認 (ノードの検索)	9
3.2 I/O割付設定	12
3.3 コンフィギュレーション設定	17
3.4 汎用ポート送受信	21
3.5 メモリ割付状況	25
3.6 測定	26
3.6.1 測定の実行	26
3.6.2 測定結果の表示	30
3.7 最後にやること	35
3.7.1 設定ツールの終了	35
3.8 その他	36
3.8.1 バージョンを確認する	36
コマンド一覧	37
コマンド一覧	37
エラーメッセージ一覧	38
エラーメッセージ一覧	38

1 章 はじめに

本書は、FL-net Ver3.00 用の設定ツールの基本的な操作方法を記載したマニュアルです。

本ツールは、Windows 上で作動するアプリケーションです。
本ツールは Microsoft .NET Framework を使用して構築されています。
Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

2 章 セットアップ方法

2.1 事前準備

動作環境

設定ツールの運用には以下の動作環境をご用意ください。

- ・ OS : Microsoft WindowsXP Professional SP3
- ・ 必要ランタイム : Microsoft .NET Framework ランタイム(2.0 以上)
- ・ ディスプレイ解像度 XGA 以上

上記条件を満たす FL-net Ver3.00 のネットワークに接続可能な P C。

設定ツールのセットアップ

任意のフォルダを作成し、同一フォルダに

- ・ FLNSetupTool .EXE
- ・ FLNSetupTool .DLL
- ・ FLNSetupTool .INI

をファイルコピーしてください。

FLNSetupTool .EXE をダブルクリックすると、設定ツールが実行されます。

FLNSetupTool .INI が存在しない場合は、設定ツール初回起動時に自動生成されます。

必要ランタイムの確認

FL-net Ver3.00 用の設定ツールは Microsoft .NET Framework を使用して構築されています。実行するには Microsoft の提供する

Microsoft .NET Framework ランタイム(2.0 以上)

が必要となります。ご使用になる P C に上記ランタイムがインストールされていない場合、設定ツールを実行した際に以下のメッセージが表示され、実行できません。

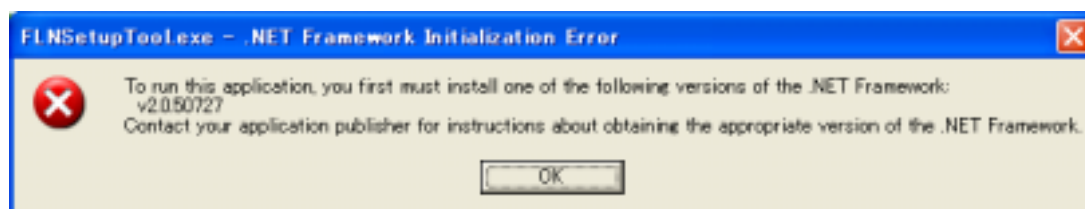


図 2.1-1 .NET Framework ランタイムエラー

メッセージが表示された場合、 の手順に従い .NET Framework ランタイム のインストールを実行してください。

.NET Framework のインストール

1. 対象の P C でインターネット(インターネットエクスプローラー)に接続してください。
2. メニュー->ツール->Windows Update をクリックします。



図 2.1-2 Windows Update

3. 更新の検索画面が表示されたら「カスタム」ボタンをクリックします。

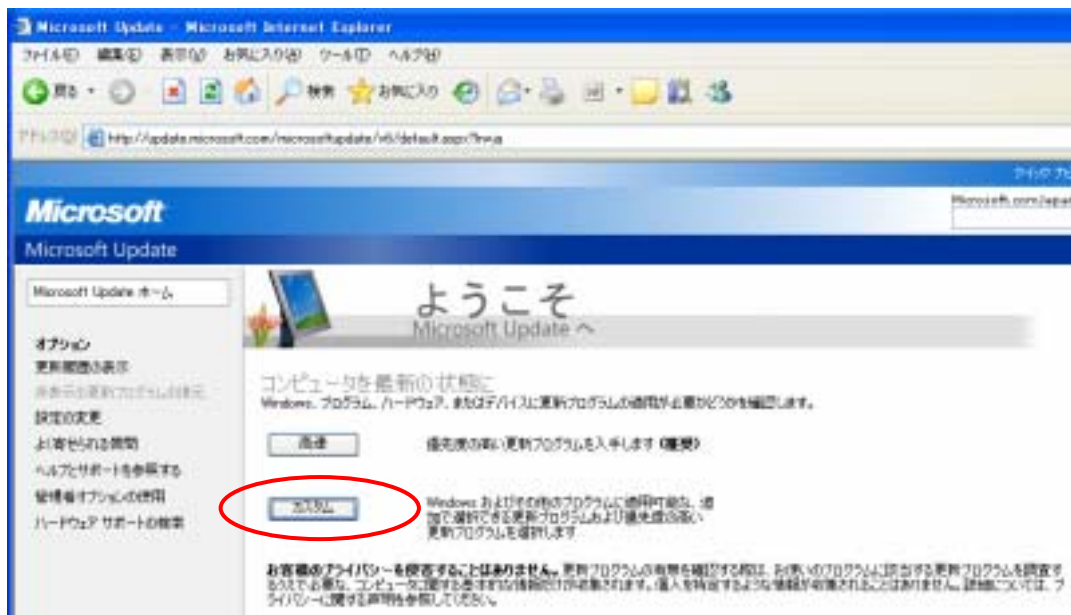


図 2.1-3 Windows Update

4. 更新の検索が終了したら「追加選択(ソフトウェア)」をクリックし、表示された更新の中から「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack1 ……」を選びます。
「更新プログラムの確認とインストール」をクリックしてインストールを開始します。

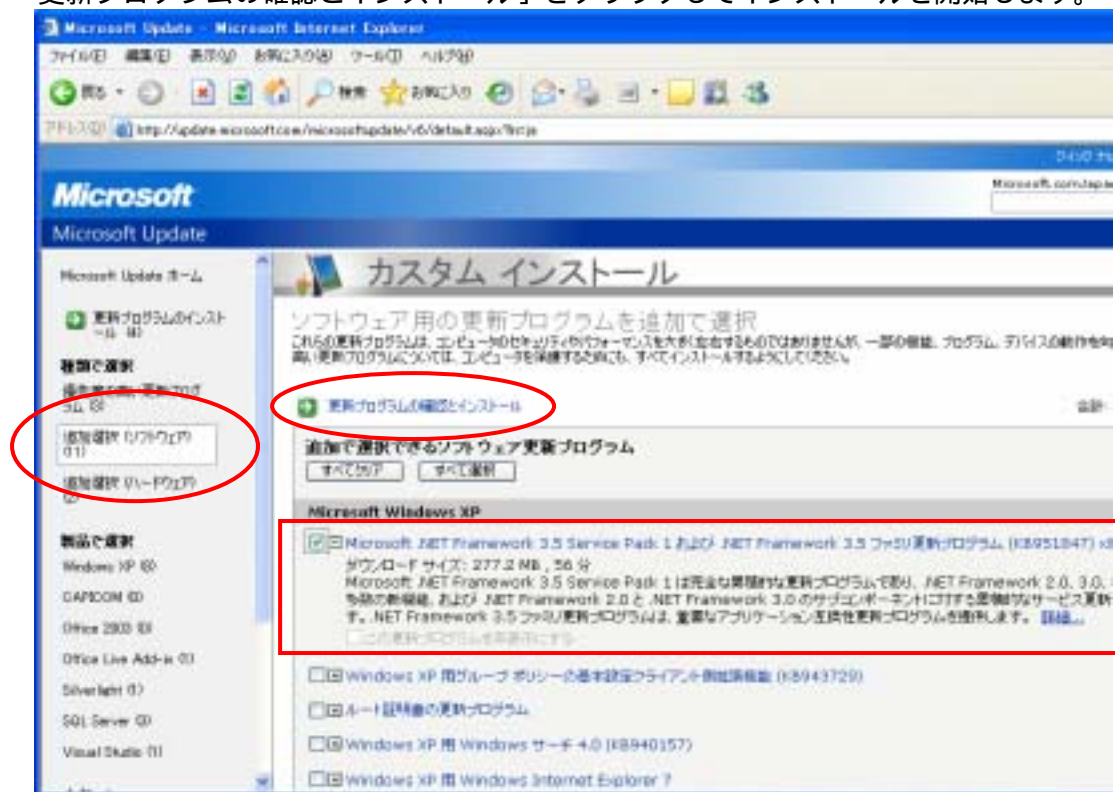


図 2.1-4 Windows Update

上記の記述は 2009 年 03 月現在のものです。
実際にインストールする場合はインストール実行時点の最新バージョンをインストールしてください。

5. インストールを開始すると自動で更新プログラムのダウンロードとインストールが実行されます。



図 2.1-5 更新プログラムのダウンロードとインストール

5. インストールが完了したら画面に従いP Cを再起動してください。
これで必要ランタイムのインストールを完了しました。



図 2.1-6 インストールの完了

2.2 ネットワークの設定

設定ツールは、FL-net Ver3.00 のネットワークに接続可能な Windows PC 上にて動作いたします。

動作 PC の IP アドレスの設定は、ユーザーが OS の設定画面 (TCP/IP のプロパティ) にて行ってください。

実際の設定は以下の手順で行います。

1. スタートボタン->コントロールパネル->ネットワーク接続を開きます。
2. ネットワーク接続のなかから FL-net へ接続する設定のアイコンをダブルクリックします。
3. 接続の状態画面が表示されたら、表示タブ「全般」が表示されていることを確認し、プロパティボタンをクリックします。
4. 接続のプロパティ画面が表示されたら、表示タブ「全般」が表示されていることを確認し、使用項目一覧の中から「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、プロパティボタンをクリックします。



図 2.2-1 接続の状態

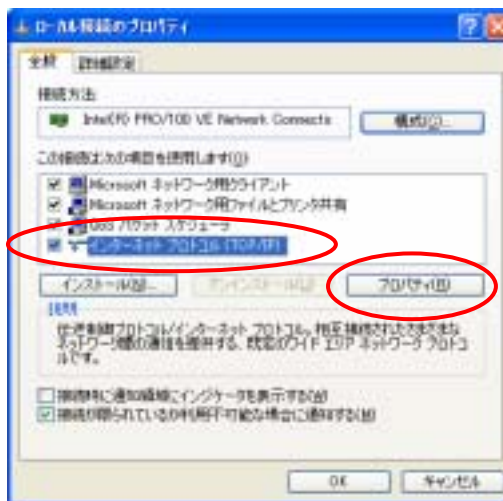


図 2.2-2 接続のプロパティ

5. インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ画面が表示されたら、使用する IP アドレスの設定を行います。
設定を行ったら OK ボタンをクリックしてください。



図 2.2-3 インターネットプロトコル(TCP/IP)

3 章 操作説明

3.1 最初にやること

3.1.1 設定ツールの起動

設定ツールを起動するには任意のフォルダにコピーした FLNSetupTool.EXE をダブルクリックします。

起動すると設定ツール メイン画面の中にノード検索画面を初期画面として開きます。



図 3.1.1-1 設定ツール 起動画面

NO	項目名	目的および操作方法
1	ノード検索	ノード検索画面を表示します。
2	I/O 割付設定	I/O 割付設定画面を表示します。
3	コンフィグレーション設定	コンフィグレーション設定画面を表示します。
4	汎用コマンド送受信	汎用コマンド送受信画面を表示します。
5	メモリ割付状況	メモリ割付状況画面を表示します。
6	バージョン	設定ツールのバージョンを表示します。
7	システム終了	プログラムを終了します。

表 3.1.1 設定ツール メイン画面メニュー項目一覧

起動直後の状態では、メニューの「I/O 割付設定」「コンフィグレーション設定」「汎用コマンド送受信」「メモリ割付状況」は無効です。有効にするにはノード検索を行ってください。

ネットワークに接続されていない環境でも設定ツールは起動しますが、機能を有効にするにはノード検索をする必要がある為、ネットワークに接続されていない場合は、使用できません。ご使用の際は、FL-net Ver3.00のネットワークに接続した上で起動するようにしてください。

3.1.2 動作確認（ノードの検索）

ノードの検索を実行するには検索ネットワークの設定を行い、検索ボタンをクリックします。



図 3.1.2-1 ノード検索画面

NO	項目名	目的および操作方法
1	検索ネットワーク 1	検索するネットワーク IP アドレスの 1 バイト目を入力します。 (入力必須)
2	検索ネットワーク 2	検索するネットワーク IP アドレスの 2 バイト目を入力します。 (入力必須)
3	検索ネットワーク 3	検索するネットワーク IP アドレスの 3 バイト目を入力します。 (入力必須)
4	検索ネットワーク 4-1	検索するネットワーク IP アドレスの 4 バイト目の検索開始値を入力します。
5	検索ネットワーク 4-2	検索するネットワーク IP アドレスの 4 バイト目の検索終了値を入力します。
6	自ネットワーク チェック	チェックありの場合、自 PC が所属するネットワーク IP アドレスのうち、1～3 バイトが検索ネットワーク 1～3 にセットされます。 自 PC が所属するネットワーク IP アドレスが複数ある場合はネットワーク選択画面が表示されます。 チェックなしの場合、検索ネットワーク 1～3 への自由な入力が可能になります。
7	応答タイムアウト	ポートに対する問合せのタイムアウト時間を指定します。 100～30000(ミリ秒単位) (入力必須)
8	検索ボタン	ノード検索を実行します。

表 3.1.2-1 ノード検索画面 項目一覧

自ネットワーク チェックありの場合、検索ネットワーク 1～3 は入力不可となります。
検索ネットワーク 4-1・4-2 がともに未入力の場合、検索範囲は 1～254 となります。

検索ボタンをクリックすると、設定された検索ネットワークの値を元に有効なノードの検索が実行されます。

有効ノードが1件以上存在する場合、有効ノードがノード一覧に追加されます。
有効ノードが0件の場合、メッセージ「ノードが見つかりませんでした」を表示します。

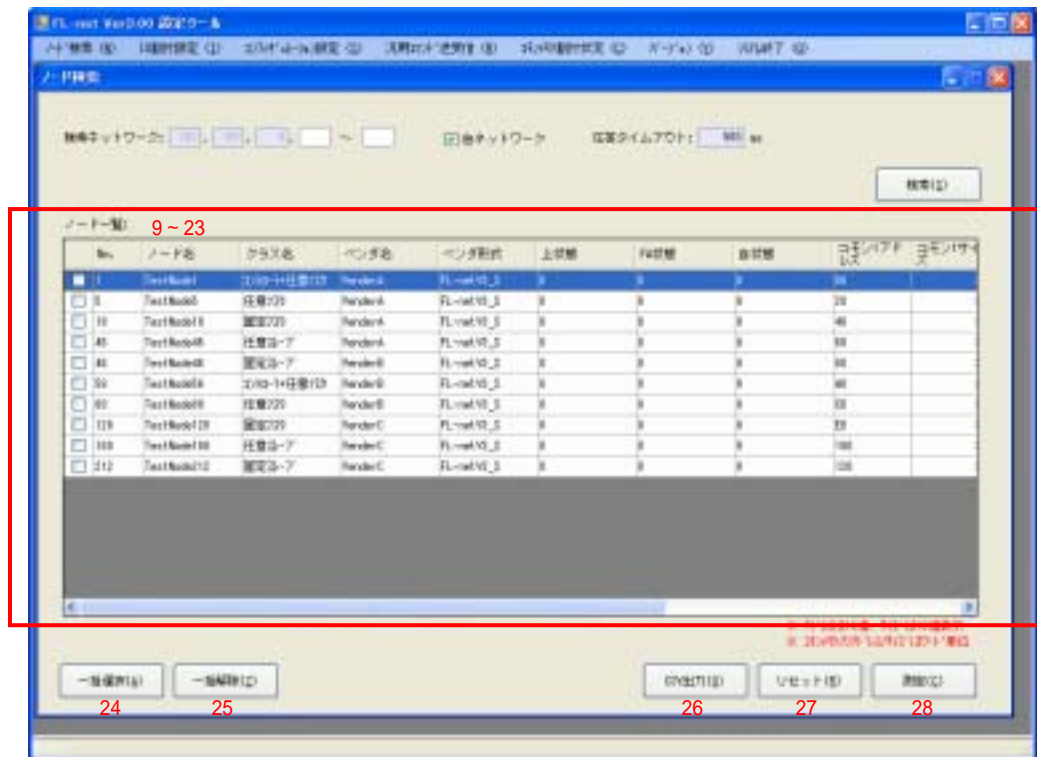


図 3.1.2-2 ノード検索画面 ノード一覧

NO	項目名	目的および操作方法
9	ノード選択 チェック	リセット・測定するノードをチェックします。
10	No.	ノード No. (ノードの IP アドレス 4 バイト目の値) を表示します。
11	ノード名	ノード名を表示します。
12	クラス名	クラス名を表示します。
13	ポート名	ポート名を表示します。
14	ポート形式	ポート形式を表示します。
15	上状態	上位層の状態を表示します。
16	FA 状態	FA リンクの状態を表示します。
17	自状態	自ノードの状態を表示します。
18	モニ1アドレス	モニタ1のアドレスを表示します。
19	モニ1サイズ	モニタ1のサイズを表示します。
20	モニ2アドレス	モニタ2のアドレスを表示します。
21	モニ2サイズ	モニタ2のサイズを表示します。
22	トーク監視時間	トーク監視時間を表示します。
23	最小許容ルーム間隔	最小許容ルーム間隔を表示します。

表 3.1.2-2 ノード検索画面 項目一覧 ノード一覧

ノード検索が正常に終了し、有効ノードが1件以上存在した場合、メイン画面メニュー項目が有効になります。

ノード検索が正常に終了し、有効ノードが1件以上存在した場合、ノード検索画面の「一括選択ボタン」「一括解除ボタン」「リセットボタン」「測定ボタン」が有効になります。

N0	項目名	目的および操作方法
24	一括選択ボタン	ノード一覧に表示された全ノードに対してノード選択チェックあり とします。
25	一括解除ボタン	ノード一覧に表示された全ノードに対してノード選択チェックなし とします。
26	CSV 出力ボタン	ノード一覧の内容を指定した CSV 形式のファイルに出力します。
27	リセットボタン	ノード一覧のうちノード選択チェックありと設定されたノードに対してコマンド「リセット」を送信します。
28	測定ボタン	ノード一覧のうちノード選択チェックありと設定されたノードに対して測定を実行します。 測定画面を開きます。

表 3.1.2-3 ノード検索画面 項目一覧

3.2 I O割付設定

I O割付設定画面を開くには、ノード検索画面にて有効なノードが1件以上存在する場合、メイン画面のメニュー「I O割付設定」をクリックします。

I O割付設定画面では以下の機能を提供します。

- ・マスタ情報に指定したノードに対してI O割付情報の修正/追加/削除を実行する。

図 3.2-1 I O割付設定画面

NO	項目名	目的および操作方法
1	マスタノード選択	マスタとして指定するノード No。 リストより選択します。
2	マスタノード名	1 で選択したノードのノード名を表示します。
3	マスタベンダ名	1 で選択したノードのベンダ名を表示します。
4	マスタベンダ形式	1 で選択したノードのベンダ形式を表示します。
5	マスタコモン1 アドレス	1 で選択したノードのコモン1 アドレスを表示します。
6	マスタコモン1 サイズ	1 で選択したノードのコモン1 サイズを表示します。
7	マスタコモン2 アドレス	1 で選択したノードのコモン2 アドレスを表示します。
8	マスタコモン2 サイズ	1 で選択したノードのコモン2 サイズを表示します。
9	CSV 取込ボタン	指定した CSV 形式のファイルから内容を I O割付情報として読み込み I O割付一覧へ表示します。
10	読込ボタン	1 で選択したノードへコマンド「I O割付読み出し」を送信し、読み込んだ内容を I O割付一覧へ表示します。

表 3.2-1 I O割付設定画面 マスタ情報

マスタノード選択には、ノード検索画面にてノード一覧に表示されたノードがリストとしてセットされます。
画面を開いた直後は、ノード一覧のうち最も若いノードが初期値として表示されます。

【I O割付設定の読み込み】

指定したノードからI O割付情報を読み込み、一覧に表示します。

マスタノード選択をクリックします。

表示されたノードのリストからマスタとするノードを選択しクリックします。

マスタ情報の内容が選択されたノードのものへと切り替わります。問題がなければ、読み込みボタンをクリックします。

読み込みが正常に実行された場合、I O割付一覧に対象ノードに設定されたI O割付情報が表示されます。

読み込みが失敗した場合、メッセージ「続行不能な異常が発生した為、処理を中止しました。」を表示します。

対象ノードにI O割付情報が設定されていない場合、メッセージ「スループノードが設定されていません」を表示します。

対象のノードがコマンド「I O割付読み込み」に対応していない場合、

メッセージ「ノード No. XXX はコマンド 未実装のため処理を中止しました。」を表示します。

【I O割付設定の取込】

指定したCSVファイルよりI O割付情報を読み込み、一覧に表示します。

CSV取込ボタンをクリックします。

表示されたI O割付一覧読み込み画面より、I O割付情報の記録されたCSVファイルを選択し開くボタンをクリックします。

選択されたファイルから取り込まれた内容が、I O割付一覧に表示されます。

ファイルからの取り込みに失敗した場合、メッセージ「続行不能な異常が発生した為、処理を中止しました。」を表示します。I O割付一覧はクリアされます。

CSVファイルの内容にノード検索画面にてノード一覧に表示されたノード以外のノード情報が含まれていた場合、確認メッセージが表示されます。

続行する場合は「はい」、取り消す場合は「いいえ」をクリックしてください。



図 3.2-2 I O割付設定画面 IO 割付一覧

NO	項目名	目的および操作方法
11	スレーブ ノード 選択 チェック	挿入/削除するノードをチェックします。
12	スレーブ No.	スレーブ ノード No.を表示します。
13	IO 入力アドレス	IO 入力アドレスを 16 進数で表示/入力します。
14	IO 入力アドレス領域指定	13 の領域を表示/入力します。(1 または 2 のみ) (1=メモリー 1 を指定・2=メモリー 2 を指定)
15	IO 入力サイズ	13 のサイズを 10 進数で表示/入力します。
16	IO 出力アドレス	IO 出力アドレスを 16 進数で表示/入力します。
17	IO 出力アドレス領域指定	16 の領域を表示/入力します。(1 または 2 のみ) (1=メモリー 1 を指定・2=メモリー 2 を指定)
18	IO 出力サイズ	16 のサイズを 10 進数で表示/入力します。
19	入力ステータスアドレス	入力ステータスアドレスを 16 進数で表示/入力します。
20	入力ステータスアドレス領域指定	19 の領域を表示/入力します。(1 または 2 のみ) (1=メモリー 1 を指定・2=メモリー 2 を指定)
21	出力ステータスアドレス	出力ステータスアドレスを 16 進数で表示/入力します。
22	出力ステータスアドレス領域指定	21 の領域を表示/入力します。(1 または 2 のみ) (1=メモリー 1 を指定・2=メモリー 2 を指定)
23	メモリー 1 アドレス	メモリー 1 のアドレスを表示します。
24	メモリー 1 サイズ	メモリー 1 のサイズを表示します。
25	メモリー 2 アドレス	メモリー 2 のアドレスを表示します。
26	メモリー 2 サイズ	メモリー 2 のサイズを表示します。
27	一括選択ボタン	IO 割付一覧に表示された全スレーブ ノード に対してスレーブ ノード 選択 チェックあり とします。
28	一括解除ボタン	IO 割付一覧に表示された全スレーブ ノード に対してスレーブ ノード 選択 チェックなし とします。

29	挿入ボタン	ノード指定画面を表示します。 ノード指定画面で選択されたノードは、I O割付一覧でスループノード選択チェックありとされたノードの前に追加されます。(単一選択の場合のみ有効)
30	削除ボタン	I O割付一覧でスループノード選択チェックありとされたノードをI O割付一覧から削除します。
31	CSV 出力ボタン	I O割付一覧の内容を指定した CSV 形式のファイルに出力します。
32	設定ボタン	マスタ情報に選択されたノードに対してコマンド「I O割付設定」を送信し、I O割付情報として設定します。
33	閉じるボタン	I O割付設定画面を閉じます。

表 3.2-2 I O割付設定画面 I O割付一覧

【I O割付設定の追加】

I O割付一覧に新しいスループノードを追加します。

新しくスループノードを追加したい行のスループノード選択へチェックを入れます。

(チェックは対象行にのみいれてください。他の行にもチェックが入っている場合エラーとなります)

挿入ボタンをクリックします。ノード指定画面が表示されます。



図 3.2-3 ノード指定画面

「現在ノード一覧」より追加したいノード No. を選択、または「No.」へ追加したいノード No. を入力してください。

決定ボタンをクリックします。

マスタノードと同じノード No. は選択しないでください。エラーとなります。

「No.」へ入力したノード No. が「現在ノード一覧」の中に存在しない場合、確認メッセージが表示されます。

続行する場合は「はい」、取り消す場合は「いいえ」をクリックしてください。

ノード指定画面にて選択されたノードがスループノード選択チェックありとされた行の前にスループノードとして追加されます。

ここで行った追加は、設定ツール画面上でのことでマスタノードには反映されていません。追加を反映するには設定ボタンをクリックします。

【I O割付設定の削除】

I O割付一覧よりスループノードを削除します。

削除したい行のスループノード選択へチェックを入れます。

削除ボタンをクリックします。

I O割付一覧より対象のスループノードが削除されます。

ここで行った削除は、設定ツール画面上でのことでマスタノードには反映されていません。削除を反映するには設定ボタンをクリックします。

【I O割付設定の修正】

表示されたI O割付一覧の内容を修正します。

表 3.2-2 No.13~22 が修正可能項目となります。

I O割付一覧上の修正項目を選択します（項目が紺色白字で選択状態です）。

修正後の値を入力します。

16進数 … 0~9, A~F で入力します。

10進数 … 0~9 で入力します。

1または2のみ … 1, 2 のみ入力可能です。

上記以外の値を入力した場合、設定ボタンクリック時に入力エラーとなります。

Enter キーを入力し、入力を確定します。

すべての修正を終えたら設定ボタンをクリックします。

I O割付情報の更新を実行します。

I O割付情報が正常に更新された場合、メッセージ「I O割付が成功しました」が表示されます。

I O割付情報の更新に失敗した場合、メッセージ「続行不能な異常が発生した為、処理を中止しました。」を表示します。

対象のノードがコマンド「I O割付設定」に対応していない場合、

メッセージ「ノード No.XXX はコマンド 未実装のため処理を中止しました。」を表示します。

【I O割付設定の出力】

表示されたI O割付一覧の内容をCSV ファイルとして出力します。

I O割付一覧にスループ ノード 情報が表示された状態で、CSV 出力ボタンをクリックします。

I O割付一覧 CSV 出力画面が表示されます。出力するファイル名称を入力、または選択して保存ボタンをクリックします。

表示されているI O割付一覧の内容がCSV ファイルとして出力されます。

【I O割付設定の終了】

I O割付設定を終了し、画面を閉じます。

閉じるボタンをクリックします。

3.3 コンフィグレーション設定

コンフィグレーション設定画面を開くには、ノード検索画面にて有効なノードが1件以上存在する場合、メイン画面のメニュー「コンフィグレーション設定」をクリックします。

コンフィグレーション設定画面では以下の機能を提供します。

- ・ノード情報に指定したノードに対して自ノード設定情報の参照/更新を実行する。

図 3.3-1 コンフィグレーション設定画面

NO	項目名	目的および操作方法
1	ノード 選択	コンフィグレーション設定の対象として指定するノード No。リストより選択します。
2	ノード 名	1 で選択したノードのノード名を表示します。
3	ベンダ 名	1 で選択したノードのベンダ名を表示します。
4	ベンダ 形式	1 で選択したノードのベンダ形式を表示します。
5	コモン 1 アドレス	1 で選択したノードのコモン 1 アドレスを表示します。
6	コモン 1 サイズ	1 で選択したノードのコモン 1 サイズを表示します。
7	コモン 2 アドレス	1 で選択したノードのコモン 2 アドレスを表示します。
8	コモン 2 サイズ	1 で選択したノードのコモン 2 サイズを表示します。
9	トークン監視時間	1 で選択したノードのトークン監視時間を表示します。
10	最小許容スループット間隔	1 で選択したノードの最小許容スループット間隔を表示します。
11	CSV 取込ボタン	指定した CSV 形式のファイルから内容をコンフィグレーション情報として読み込み、表示します。
12	読み込みボタン	1 で選択したノードへコマンド「自ノード 設定情報読み出し」を送信し、読み込んだ内容をコンフィグレーション情報として表示します。

表 3.3-1 コンフィグレーション設定画面 ノード 情報

ノード選択には、ノード検索画面にてノード一覧に表示されたノードがリストとしてセットされます。
画面を開いた直後は、ノード一覧のうち最も若いノードが初期値として表示されます。

【コフィヤ ユレシヨン情報の読み込み】

指定したノードから自ノード設定情報を読み込み、コフィヤ ユレシヨン情報として表示します。

ノード選択をクリックします。

表示されたノードのリストから自ノード設定情報を参照するノードを選択しクリックします。ノード情報の内容が選択されたノードのものへと切り替わります。問題がなければ、読込ボタンをクリックします。

読み込みが正常に実行された場合、コフィヤ ユレシヨン情報に対象ノードに設定された自ノード設定情報が表示されます。

読み込みが失敗した場合、メッセージ「続行不能な異常が発生した為、処理を中止しました。」を表示します。

対象のノードがコマンド「自ノード設定情報読み出し」に対応していない場合、メッセージ「ノード No.XXX はコマンド 未実装のため処理を中止しました。」を表示します。

【コフィヤ ユレシヨン情報の取込】

指定した CSV ファイルよりコフィヤ ユレシヨン情報を読み込み、表示します。

CSV 取込ボタンをクリックします。

表示されたコフィヤ ユレシヨン情報読込画面より、コフィヤ ユレシヨン情報の記録された CSV ファイルを選択し開くボタンをクリックします。

選択されたファイルから取り込まれた内容が、コフィヤ ユレシヨン情報に表示されます。

ファイルからの取り込みに失敗した場合、メッセージ「続行不能な異常が発生した為、処理を中止しました。」を表示します。

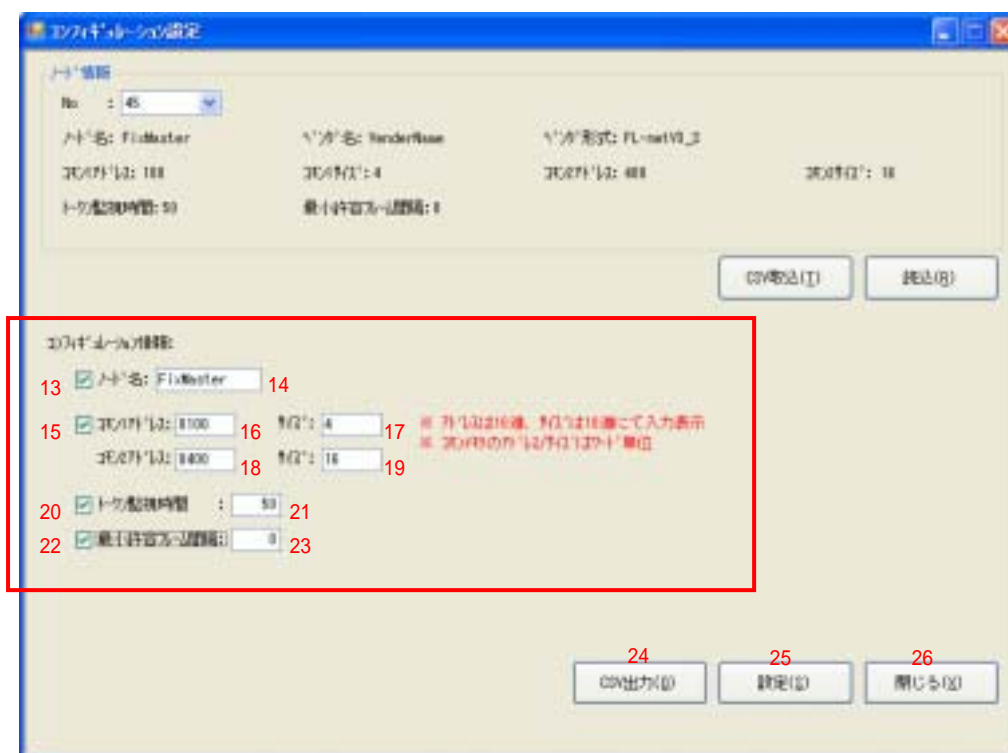


図 3.3-2 ノード設定画面

NO	項目名	目的および操作方法
13	ノード名 チェック	ノード名の修正を行う場合、 チェックあり とします。
14	ノード名 入力	ノード名を表示/入力します。(半角 10 文字)
15	コメント チェック	コメントの修正を行う場合、 チェックあり とします。
16	コメントアドレス 入力	コメントアドレスを 16 進数 で表示/入力します。
17	コメントサイズ 入力	コメントサイズを 10 進数 で表示/入力します。
18	コメント2アドレス 入力	コメント2アドレスを 16 進数 で表示/入力します。
19	コメント2サイズ 入力	コメント2サイズを 10 進数 で表示/入力します。
20	トークン監視時間 チェック	トークン監視時間の修正を行う場合、 チェックあり とします。
21	トークン監視時間 入力	トークン監視時間を 10 進数 で表示/入力します。
22	最小許容フレーム間隔 チェック	最小許容フレーム間隔の修正を行う場合、 チェックあり とします。
23	最小許容フレーム間隔 入力	最小許容フレーム間隔を 10 進数 で表示/入力します。
24	CSV 出力ボタン	ノード設定情報の内容を指定した CSV 形式のファイルに出力します。
25	設定ボタン	ノード情報に選択されたノードに対してコマンド「ノード設定」を送信し、自ノード設定情報として設定します。
26	閉じるボタン	ノード設定画面を閉じます。

表 3.3-2 ノード設定画面 ノード設定情報

【コフィグレーション情報の出力】

コフィグレーション情報の内容を CSV ファイルとして出力します。

コフィグレーション情報に対象ノードの設定情報が表示/入力された状態で、CSV 出力ボタンをクリックします。

コフィグレーション情報 CSV 出力画面が表示されます。出力するファイル名称を入力、または選択して保存ボタンをクリックします。

表示されているコフィグレーション情報の内容が CSV ファイルとして出力されます。

【コフィグレーション情報の設定】

指定したノードの自ノード設定情報を、コフィグレーション情報の内容で更新します。

以下記述の No、項目名は 表 3.3-2 を参照のこと。

ノード名の修正を行う場合、No.13 ノード名チェックをクリックし、チェックを入れます。

No.14 ノード名入力 新しいノード名を入力します(半角 10 文字)。

コモンメモリの修正を行う場合、No.15 コモンメモリチェックをクリックし、チェックを入れます。

No.16 コモンアドレス入力 16 進数 0 ~ 1FF の範囲で新しいアドレスを入力します。

No.17 コモンサイズ入力 10 進数 0 ~ 512 の範囲で新しいサイズを入力します。

No.18 コモン2アドレス入力 16 進数 0 ~ 1FFF の範囲で新しいアドレスを入力します。

No.19 コモン2サイズ入力 10 進数 0 ~ 8192 の範囲で新しいサイズを入力します。

トーク監視時間の修正を行う場合、No.20 トーク監視時間チェックをクリックし、チェックを入れます。

No.21 トーク監視時間入力 10 進数 1 ~ 255 の範囲で新しいトーク監視時間を入力します。

最小許容フレーム間隔の修正を行う場合、No.22 最小許容フレーム間隔チェックをクリックし、チェックを入れます。

No.23 最小許容フレーム間隔入力 10 進数 0 ~ 50 の範囲で新しい最小許容フレーム間隔を入力します。

すべての修正を終えたら、設定ボタンをクリックします。

自ノード設定情報の更新を実行します。

自ノード設定情報が正常に更新された場合、メッセージ「コフィグレーション設定が成功しました」が表示されます。

自ノード設定情報の更新に失敗した場合、メッセージ「続行不能な異常が発生した為、処理を中止しました。」を表示します。

対象のノードがコマンド「コフィグレーション設定」に対応していない場合、

メッセージ「ノード No.XXX はコマンド未実装のため処理を中止しました。」を表示します。

修正の内容を反映させるためには、必ず項目ごとの更新チェック(No.13、15、20、22)にチェックを入れなければなりません。

項目内容を修正しても更新チェックが外れていた場合、設定ボタンをクリックし更新を実行しても修正内容は対象のノードに反映されません。

【コフィグレーション設定の終了】

コフィグレーション設定を終了し、画面を閉じます。

閉じるボタンをクリックします。

3.4 汎用コマンド送受信

汎用コマンド送受信画面を開くには、ノード検索画面にて有効なノードが1件以上存在する場合、メイン画面のメニュー「汎用コマンド送受信」をクリックします。

汎用コマンド送受信画面では以下の機能を提供します。

- ・ノード情報に指定したノードに対して一覧より選択したコマンドを送信する。
- ・コマンド送受信結果を表示する。



図 3.4-1 汎用コマンド送受信画面

NO	項目名	目的および操作方法
1	ノード選択	コマンド送受信の対象として指定するノード No. リストより選択します。
2	ノード名	1 で選択したノードのノード名を表示します。
3	ベンダ名	1 で選択したノードのベンダ名を表示します。
4	ベンダ形式	1 で選択したノードのベンダ形式を表示します。
5	コモン1アドレス	1 で選択したノードのコモン 1 アドレスを表示します。
6	コモン1サイズ	1 で選択したノードのコモン 1 サイズを表示します。
7	コモン2アドレス	1 で選択したノードのコモン 2 アドレスを表示します。
8	コモン2サイズ	1 で選択したノードのコモン 2 サイズを表示します。
9	トーク監視時間	1 で選択したノードのトーク監視時間を表示します。
10	最小許容フレーム間隔	1 で選択したノードの最小許容フレーム間隔を表示します。

表 3.4-1 汎用コマンド送受信画面 ノード情報

ノード選択には、ノード検索画面にてノード一覧に表示されたノードがリストとしてセットされます。
画面を開いた直後は、ノード一覧のうち最も若いノードが初期値として表示されます。

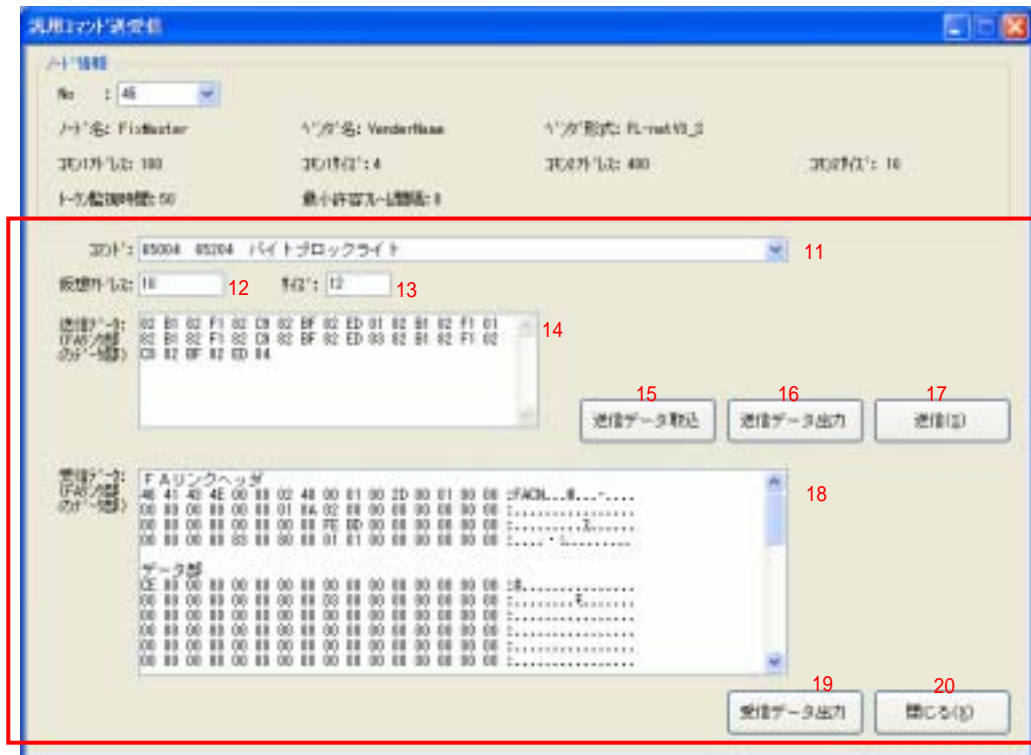


図 3.4-2 汎用コマンド送受信画面

NO	項目名	目的および操作方法
11	コマンド 選択	指定したノードに対して送信するコマンド。 リストより選択します。
12	仮想アドレス	読込/書込に使用する仮想メモリのアドレスを 16 進数で入力します。
13	仮想サイズ	読込/書込に使用する仮想メモリのサイズを 10 進数で入力します。
14	送信データ	送信するデータを表示または入力します。
15	送信データ取込ボタン	指定したテキスト形式のファイルから内容を送信データとして読込み、表示します。
16	送信データ出力ボタン	送信データの内容を指定したテキスト形式のファイルに出力します。
17	送信ボタン	11 にて選択したコマンドを指定したノードに送信します。
18	受信データ	選択コマンド送受信の結果を表示します。
19	受信データ出力ボタン	18 に表示された内容を指定したテキスト形式のファイルに出力します。
20	閉じるボタン	汎用コマンド送受信画面を閉じます。

表 3.4-2 汎用コマンド送受信画面 コマンド送信

コマンド 選択には表 コマンド一覧 に記載されたコマンドがリストとしてセットされます。画面を開いた直後は、コマンド「バイトブロックリード」が初期値として表示されます。

仮想アドレス・仮想サイズはコマンド「バイトブロックリード」「バイトブロックライト」「ワードブロックリード」「ワードブロックライト」を選択した場合のみ、入力可能です。他のコマンドでは使用しないため、入力不可となります。

【コマンドの送信】

指定したノードへ選択したコマンドを送信します。

以下記述の No、項目名は 表 3.4-1・3.4-2 を参照のこと。

No.1 ノード 選択をクリックします。

表示されたノードのリストからコマンドを送信するノードを選択しクリックします。

ノード情報の内容が選択されたノードのものへと切り替わります。問題がなければ、

No.11 コマンド 選択をクリックします。

表示されたコマンドのリストから送信するコマンドを選択しクリックします。

選択したコマンドが

「バイトブロックリード」「バイトブロックライト」

「ワードブロックリード」「ワードブロックライト」

の場合、No.12 仮想アドレス・No.13 仮想サイズが入力可能になります。

No.12 仮想アドレス …… 16 進数 0 ~ FFFFFFFF の範囲で対象アドレスを入力します。

No.13 仮想サイズ …… 10 進数 1 ~ 1024・1 ~ 512 の範囲で入出力サイズを入力します。

「バイトブロックリード」「バイトブロックライト」の場合、最大サイズ 1024

「ワードブロックリード」「ワードブロックライト」の場合、最大サイズ 512

が適用されます。

選択したコマンドが送信データありの場合、No.14 送信データへ送信するデータを

16 進数(0 ~ 9・A ~ F)で入力します。

送信データを記録したテキスト形式のファイルが存在する場合、送信データ取込ボタンをクリックして送信データ読込画面を開き、対象のファイルを選択することで送信データとして取り込むことが可能です。

(上記の場合、取り込んだ内容に送信データとして対応しくない値(0 ~ 9・A ~ F 以外)が含まれていた場合でも、No.14 送信データに表示されます。画面上で修正を行ったうえで送信を実行してください。対応しくない値が含まれたまま送信を実行した場合、エラーとなります)

すべての設定を終えたら送信ボタンをクリックします。

指定したノードに対して選択したコマンドを実行します。

コマンド送受信が正常に終了した場合、メッセージ「コマンド送受信が終了しました。受信データを確認してください。」が表示されます。

No.18 受信データ F A リンクヘッダ へ受信したデータのヘッダ部分が表示されます。

No.18 受信データ データ部 へ受信したデータのデータ部分が表示されます。

コマンド送受信が正常に終了できなかった場合、メッセージ「続行不能な異常が発生した為、処理を中止しました。」を表示します。

【送信データの出力】

No. 14 送信データへ表示/入力された送信データをテキストファイルとして出力します。

No. 14 送信データへ送信データが表示/入力された状態で、送信データ出力ボタンをクリックします。

送信データ出力画面が表示されます。出力するファイル名称を入力、または選択して保存ボタンをクリックします。

表示されている送信データの内容がテキストファイルとして出力されます。

【受信データの出力】

No. 18 受信データへ表示された受信データをテキストファイルとして出力します。

No. 18 受信データへ受信データが表示された状態で、受信データ出力ボタンをクリックします。

受信データ出力画面が表示されます。出力するファイル名称を入力、または選択して保存ボタンをクリックします。

表示されている受信データの内容がテキストファイルとして出力されます。

【汎用コマンド送受信の終了】

汎用コマンド送受信を終了し、画面を閉じます。

閉じるボタンをクリックします。

3.5 コモンメモリ割付状況

コモンメモリ割付状況画面を開くには、ノード検索画面にて有効なノードが1件以上存在する場合、メイン画面のメニュー「コモンメモリ割付状況」をクリックします。

コモンメモリ割付状況画面では以下の機能を提供します。

- ・ノード検索画面にて有効な全ノードについてコモンメモリ1・コモンメモリ2の割付状況を表示する。

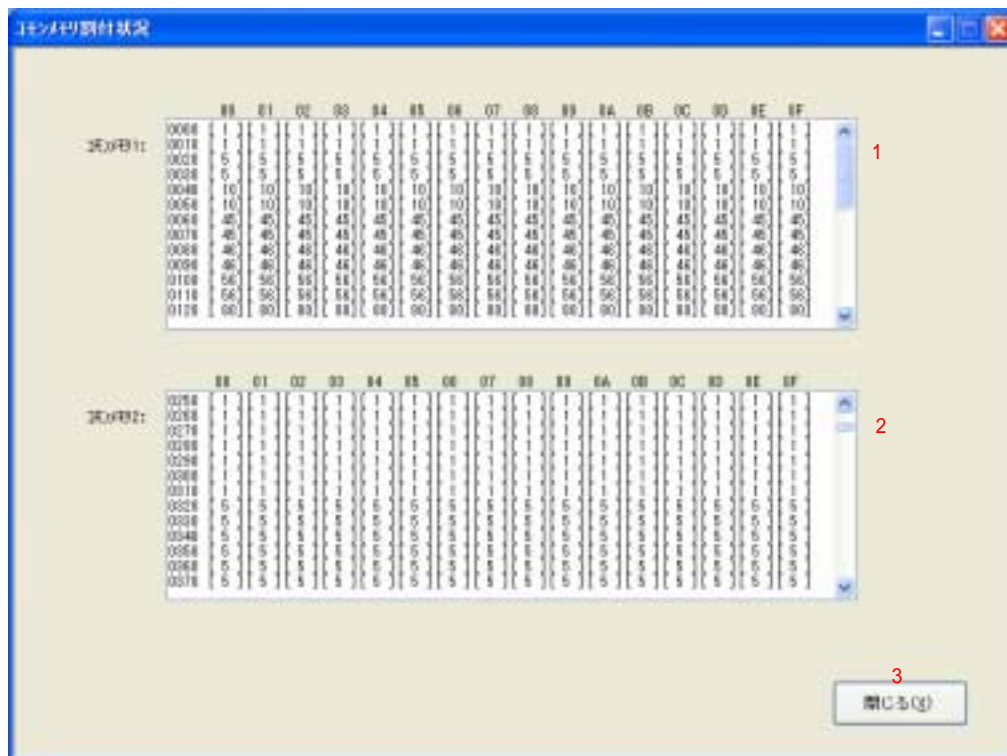


図 3.5-1 コモンメモリ割付状況画面

NO	項目名	目的および操作方法
1	コモンメモリ1	コモンメモリ1の領域のうち、各ノードに割り付けられたアドレスに、割り付けられたノードのノードNoを表示します。
2	コモンメモリ2	コモンメモリ2の領域のうち、各ノードに割り付けられたアドレスに、割り付けられたノードのノードNoを表示します。
3	閉じるボタン	コモンメモリ割付状況画面を閉じます。

表 3.5-1 コモンメモリ割付状況画面

各コモンメモリ領域のうち、ノードに割り付けられていないアドレスは空白で表示されます。各コモンメモリ領域のうち、複数のノードに重複して割り付けられているアドレスは、もっとも若いノードのノードNoを表示します。

【コモンメモリ割付状況の終了】

コモンメモリ割付状況の表示を終了し、画面を閉じます。

閉じるボタンをクリックします。

3.6 測定

3.6.1 測定の実行

測定画面を開くには、ノード検索画面にて有効なノードが1件以上存在する場合に、測定したいノードの「ノード選択チェック」をクリックしチェックを入れます。

「ノード選択チェック」チェックありのノードが1件以上存在する場合に、測定ボタンをクリックします。

前回実行した手動測定が継続中で、前回とは違うノードを選択した場合、確認メッセージ「手動測定中ですが、前回と同じノードが選択されていません。

前回ノード XXX,XXX,XXX

手動測定モードを強制解除してよろしいですか？

各ノードに終了通知は送られません。」

が表示されます。

続行する場合は「はい」、取り消す場合は「いいえ」をクリックしてください。

測定画面では以下の機能を提供します。

- ・選択されたノードに対して「トク保持時間測定」及び「汎用通信データ送信元ログ測定」を実行する。
- ・測定サイクル・測定回数を設定した場合、自動測定を実行する。
自動測定は測定サイクルに指定した時間を1回分測定時間とし、測定回数に指定した回数分、測定を繰り返し実行します。
- ・測定サイクル・測定回数を設定しなかった場合、手動測定を実行する。
手動測定は測定開始ボタンをクリックしてから測定終了ボタンをクリックするまで、1回の測定を継続して実行します。
- ・測定が終了した時、測定結果画面を表示する。

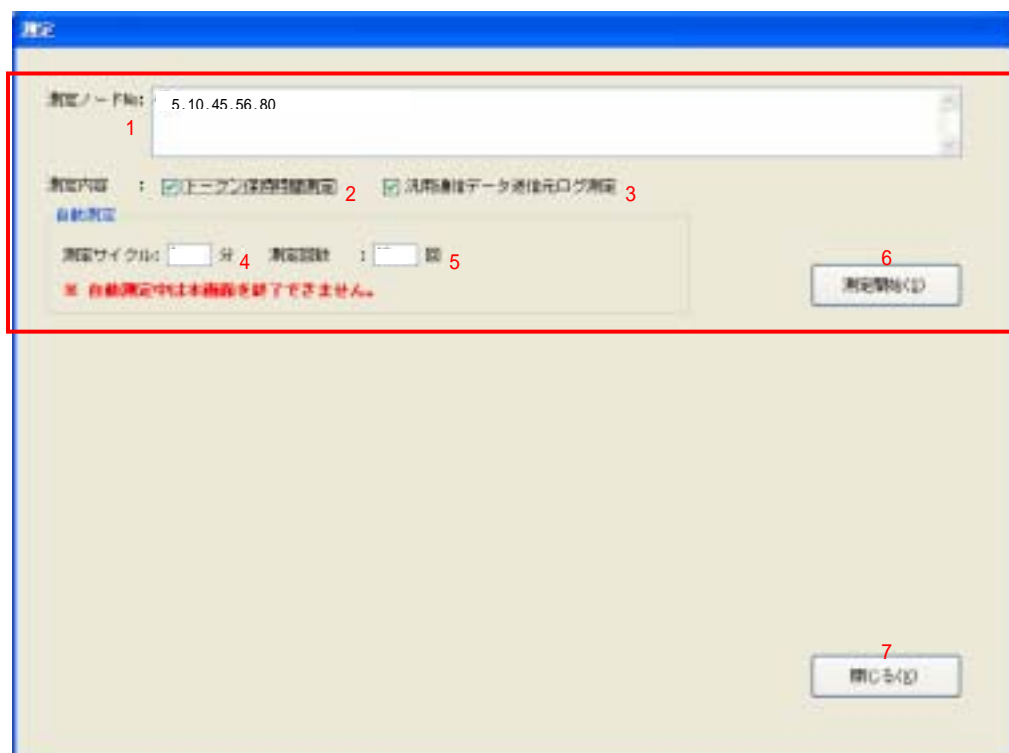


図 3.6.1-1 測定画面

NO	項目名	目的および操作方法
1	測定ノード No	ノード検索画面にて測定対象として選択されたノードのノード No をカマ区切りで昇順に表示します。
2	トークン保持時間測定チェック	トークン保持時間測定を実行する場合チェックを入れます。
3	汎用通信データ送信元ID 測定 チェック	汎用通信データ送信元ID 測定を実行する場合チェックを入れます。
4	測定サイクル	自動測定の場合、1 回分の測定時間を入力します。 手動測定の場合、未入力(空白)とします。
5	測定回数	自動測定の場合、測定を実行する回数を入力します。 手動測定の場合、未入力(空白)とします。
6	測定開始ボタン (測定中止) (測定終了)	測定を開始します。 (測定を中止します) (測定を終了します)
7	閉じるボタン	測定画面を終了します。

表 3.6.1-1 測定画面 測定条件

【自動測定の開始】

自動測定の条件を設定し、測定を開始します。

以下記述の No、項目名は 表 3.6.1-1 を参照のこと。

測定ノード No に測定対象ノードが表示されていることを確認します。

トークン保持時間測定を実行する場合、No.2 トークン保持時間測定チェックをクリックしてチェックを入れます。

汎用通信データ送信元ID 測定を実行する場合、No.3 汎用通信データ送信元ID 測定チェックをクリックしてチェックを入れます。

トークン保持時間測定チェックと汎用通信データ送信元ID 測定チェックは必須入力です。

必ずどちらか一方はチェックを入れるようにしてください。

測定サイクル・測定回数を入力します。

No.4 測定サイクル …… 10 進数 1～999(分)の範囲で入力します。

No.5 測定回数 …… 10 進数 1～100(回)の範囲で入力します。

自動測定の場合、測定サイクル・測定回数は必須入力です。必ず入力してください。

両方とも未入力(空白)の場合、手動測定として扱われます。

条件を設定したら、測定開始ボタンをクリックします。

ノードの自動測定が実行されます。

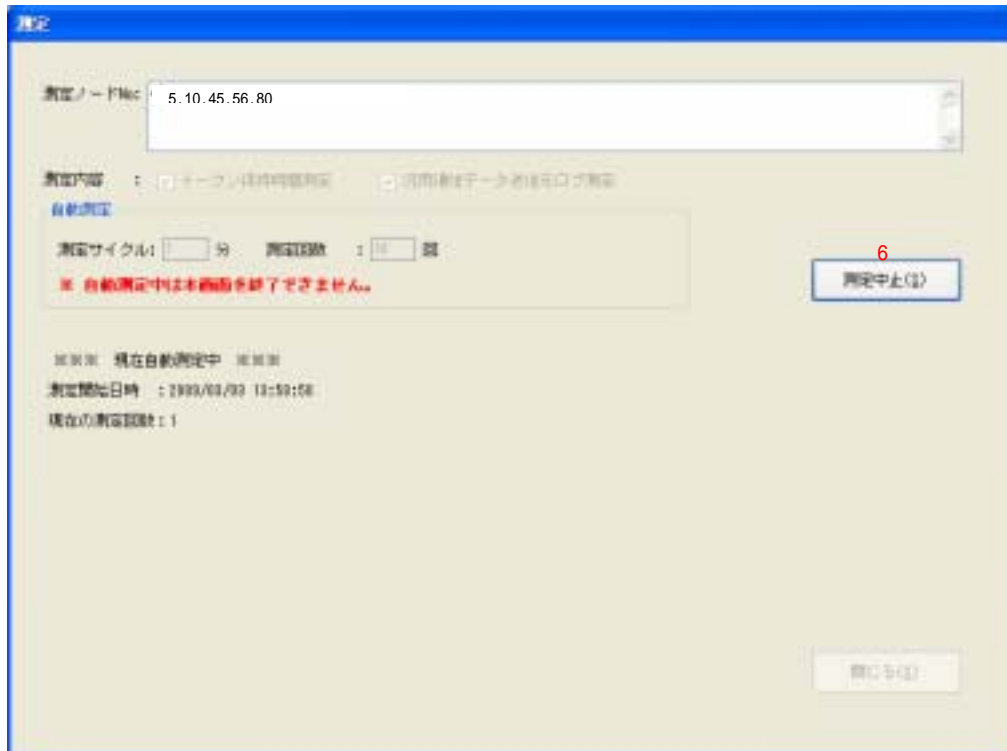


図 3.6.1-2 測定画面 自動測定中

自動測定実行中は測定開始ボタンが「測定中止」ボタンになります。
「現在の測定回数」が表示されます。

【自動測定の終了/中止】

自動測定の実行中は画面を終了できません。

指定した測定回数分の測定が終了する前に自動測定を終了したい場合は、測定中止ボタンをクリックします。

測定中止処理が実行されます。

測定中止処理が正常に終了した場合、メッセージ「測定を中止しました」が表示されます。

測定対象の全ノードに対して測定中止処理が失敗した場合、メッセージ「続行不能な異常が発生した為、処理を中止しました。」を表示します。

測定を中止するまでに、1件以上正常な測定結果を取得していた場合、測定結果画面が表示されます。

自動測定を中止せずに指定した測定回数分の測定が終了した場合、測定結果画面が表示されます。

測定中止ボタンは「測定開始」ボタンに戻ります。

【手動測定の開始】

手動測定の条件を設定し、測定を開始します。

測定ノード No に測定対象ノードが表示されていることを確認します。

トークン保持時間測定を実行する場合、No.2 トークン保持時間測定チェックをクリックしてチェックを入れます。

汎用通信データ送信元ID測定を実行する場合、No.3 汎用通信データ送信元ID測定チェックをクリックしてチェックを入れます。

トークン保持時間測定チェックと汎用通信データ送信元ID測定チェックは必須入力です。
必ずどちらか一方はチェックを入れるようにしてください。

測定サイクル・測定回数を空白とします。

手動測定の場合、測定サイクル・測定回数は入力しません。

両方とも値が設定されていた場合、自動測定として扱われます。

条件を設定したら、測定開始ボタンをクリックします。

ノードの手動測定が実行されます。

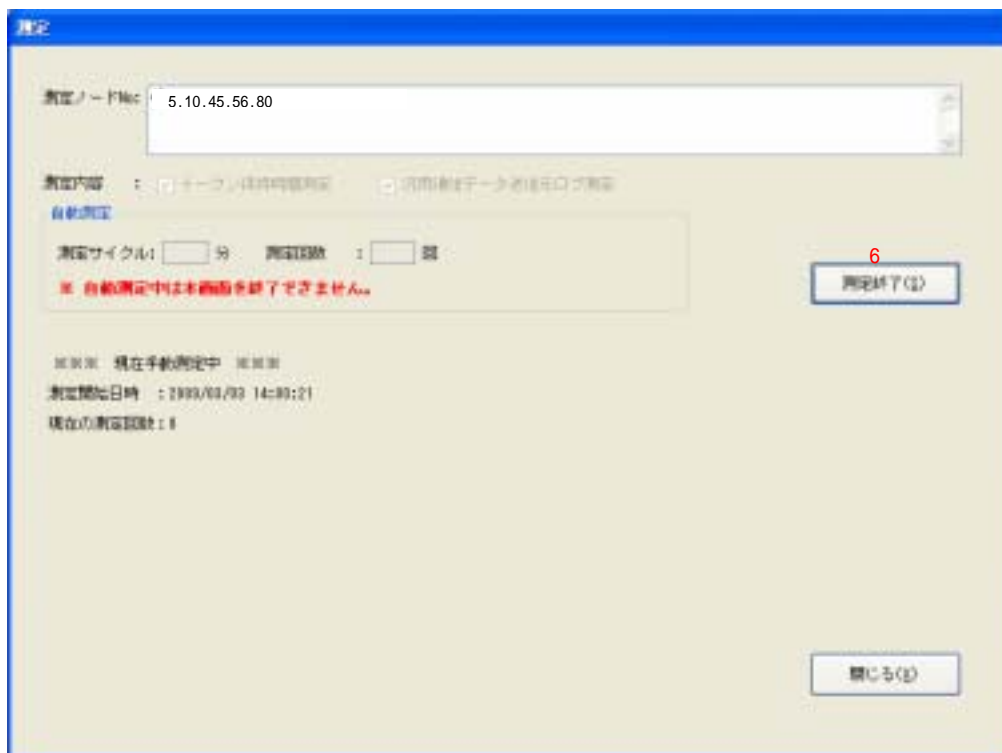


図 3.6.1-3 測定画面 手動測定中

手動測定実行中は測定開始ボタンが「測定終了」ボタンになります。

「現在の測定回数」は0回として表示されます。

手動測定中は、閉じるボタンをクリックし、画面を終了することができます。

測定対象ノード側では測定を継続します。

次回、測定画面を開く時に選択ノードが今回と同じ場合、手動測定継続中として

図 3.6.1-3 の状態で復帰します。

【手動測定の終了】

手動測定の実行中に画面を終了しても、測定は終了しません。

手動測定を終了するには測定終了ボタンをクリックします。

測定終了処理が実行されます。

測定終了処理が正常に終了した場合、メッセージ「測定を終了しました」が表示されます。

測定対象の全ノードに対して測定終了処理が失敗した場合、メッセージ「続行不能な異常が発生した為、処理を中止しました。」を表示します。

正常に測定終了処理を終了したノードが存在する場合、測定結果画面が表示されます。

測定終了ボタンは「測定開始」ボタンに戻ります。

3.6.2 測定結果の表示

測定結果画面を開くには、測定画面にて「トークン保持時間測定」「汎用通信データ送信元ID測定」を実行する必要があります。

測定画面で測定終了の際、正常な測定結果が1件以上存在する場合、自動的に測定結果画面に切り替わります。

測定結果画面では以下の機能を提供します。

- ・選択されたノードに対して「トークン保持時間測定」及び「汎用通信データ送信元ID測定」の実行結果を表示する。

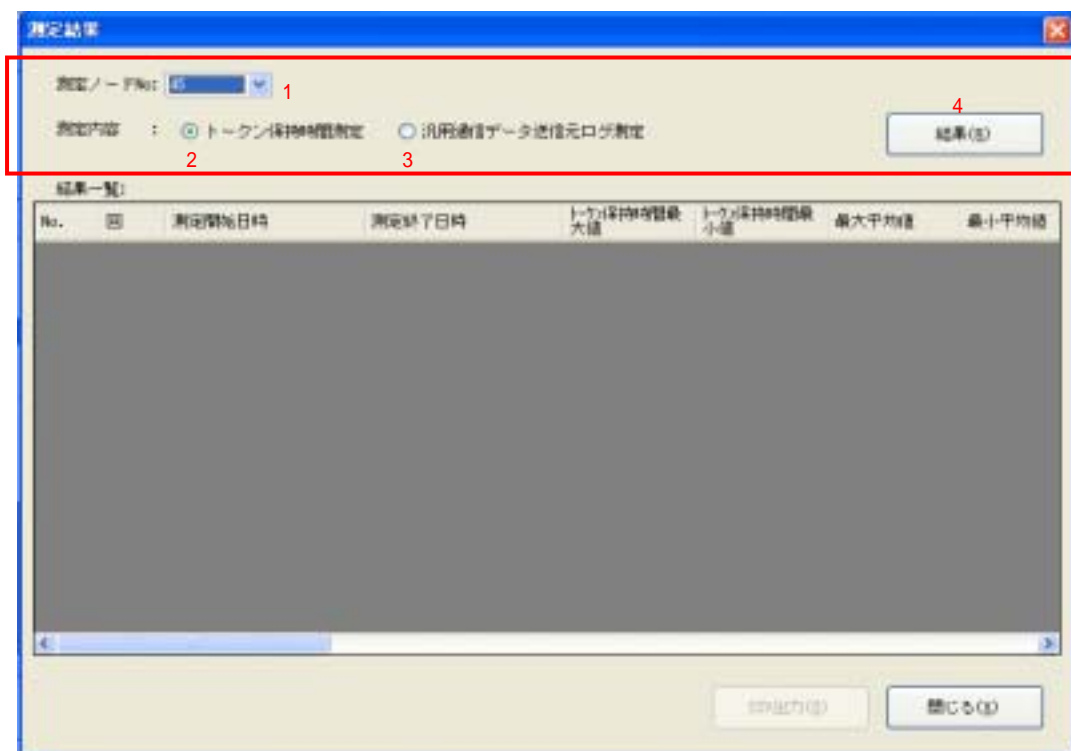


図 3.6.2-1 測定結果画面

NO	項目名	目的および操作方法
1	測定ノード No	測定結果を表示するノードのノード No。リストより選択します。
2	トークン保持時間測定	トークン保持時間測定結果を表示する場合、選択状態とします。
3	汎用通信データ送信元ID測定	汎用通信データ送信元ID測定結果を表示する場合、選択状態とします。
4	結果ボタン	1 で選択したノードの測定結果を結果一覧に表示します。
5	CSV 出力ボタン	表示中の測定結果を CSV 形式のファイルに出力します。
6	閉じるボタン	測定結果画面を閉じます。

表 3.6.2-1 測定結果画面 測定結果表示条件

測定ノード No には、測定画面にて測定対象に選択されたノードがリストとしてセットされます。

画面を開いた直後は、対象ノードのうち最も若いノードが初期値として表示されます。

【測定結果の表示】

以下記述の No、項目名は 表 3.6.2-1 を参照のこと。

測定ノード No をクリックします。

表示されたノードのリストから測定結果を表示するノードを選択します。

No.2 トーク保持時間測定 または No.3 汎用通信データ送信元ログ測定 のうち、測定結果を表示するほうを選択状態とします(ありの状態)。

トーク保持時間測定 と 汎用通信データ送信元ログ測定 は一方のみ選択可となります。

結果ボタンをクリックします。

対象ノードの測定結果が読み込まれ、選択された側の内容が結果一覧に表示されます。

表示する測定結果の内容を変更する場合は、トーク保持時間測定 と 汎用通信データ送信元ログ測定 を選択しなおします。結果一覧には選択された側の測定結果が表示されます。

測定ノード No を変更した場合は、結果ボタンをクリックし、あらためて選択されたノードの測定結果を読み込みなおします。

No.	回	測定開始日時	測定終了日時	トーク保持時間最大値	トーク保持時間最小値	最大平均値	最小平均値
45	1	2009/03/03 15:57:12	2009/03/03 15:58:12	0	0	0	
45	2	2009/03/03 15:58:12	2009/03/03 15:59:12	0	0	0	
45	3	2009/03/03 15:59:12	2009/03/03 16:00:12	0	0	0	
45	4	2009/03/03 16:00:12	2009/03/03 16:01:13	0	0	0	
45	5	2009/03/03 16:01:13	2009/03/03 16:02:13	0	0	0	
45	6	2009/03/03 16:02:13	2009/03/03 16:03:13	0	0	0	
45	7	2009/03/03 16:03:13	2009/03/03 16:04:13	0	0	0	
45	8	2009/03/03 16:04:13	2009/03/03 16:05:13	0	0	0	
45	9	2009/03/03 16:05:13	2009/03/03 16:06:13	0	0	0	
45	10	2009/03/03 16:06:13	2009/03/03 16:07:14	0	0	0	
45	11	2009/03/03 16:07:14	2009/03/03 16:08:14	0	0	0	
45	12	2009/03/03 16:08:14	2009/03/03 16:09:14	0	0	0	
45	13	2009/03/03 16:09:14	2009/03/03 16:10:14	0	0	0	
45	14	2009/03/03 16:10:14	2009/03/03 16:11:14	0	0	0	
45	15	2009/03/03 16:11:14	2009/03/03 16:12:14	0	0	0	
45	16	2009/03/03 16:12:14	2009/03/03 16:13:14	0	0	0	0

図 3.6.2-2 測定結果画面 トーク保持時間測定結果

NO	項目名	目的および操作方法
7	No.	測定対象のノード No 。表示のみ。
8	回	測定回数(回目)。表示のみ。
9	測定開始日時	この回の測定を開始した日時。表示のみ。
10	測定終了日時	この回の測定を終了した日時。表示のみ。
11	トーク保持時間最大値	10 進数。表示のみ。
12	トーク保持時間最小値	10 進数。表示のみ。
13	最大平均値	10 進数。表示のみ。合計行のみ。

14	最小平均値	10 進数。表示のみ。合計行のみ。
15	トークン破棄回数	10 進数。表示のみ。
16	トークン破棄検出直近の時間	10 進数。表示のみ。
17	トークン再発行回数	10 進数。表示のみ。
18	トークン再発行直近の時間	10 進数。表示のみ。
19	トークン保持タイムアウト回数	10 進数。表示のみ。
20	トークン保持タイムアウト直近の時間	10 進数。表示のみ。
21	トークン監視タイムアウト回数	10 進数。表示のみ。
22	トークン監視タイムアウト直近の時間	10 進数。表示のみ。
23	トークン保持時間最大値検出時間	10 進数。表示のみ。
24	トークン保持時間測定時間	10 進数。表示のみ。
25	トークン保持時間測定中のトークン回数	10 進数。表示のみ。
26	リフレッシュサイクル最大値検出時の時間	10 進数。表示のみ。
27	サイクルクリックフルーム受信回数	10 進数。表示のみ。
28	サイクルクリック伝送受信エラー回数	10 進数。表示のみ。
29	サイクルクリック伝送受信エラー検出時間	10 進数。表示のみ。
30	メッセージ伝送受信エラー回数	10 進数。表示のみ。
31	メッセージ伝送受信エラー検出時間	10 進数。表示のみ。

表 3.6.2-2 測定結果画面 トークン保持時間測定結果項目一覧

【トークン保持時間測定結果の出力】

表示中のトークン保持時間測定結果を CSV 形式のファイルに出力します。

No.2 トークン保持時間測定が選択され、結果一覧にトークン保持時間測定結果が表示されている状態で CSV 出力ボタンをクリックします。

測定結果一覧 CSV 出力画面が表示されます。出力するファイル名称を入力、または選択して保存ボタンをクリックします。

表示されているトークン保持時間測定結果の内容が CSV 形式のファイルとして出力されます。

No.	回	測定開始日時	測定終了日時	IP1	IP1受信カウンタ	IP2	IP2受信カウンタ
45	1	2008/03/03 15:57:12	2008/03/03 15:58:12	192.168.4.45	2		
45	2	2008/03/03 15:58:12	2008/03/03 15:59:12	192.168.4.45	2		
45	3	2008/03/03 15:59:12	2008/03/03 16:00:13	192.168.4.45	2		
45	4	2008/03/03 16:00:13	2008/03/03 16:01:13	192.168.4.45	2		
45	5	2008/03/03 16:01:13	2008/03/03 16:02:13	192.168.4.45	2		
45	6	2008/03/03 16:02:13	2008/03/03 16:03:13	192.168.4.45	2		
45	7	2008/03/03 16:03:13	2008/03/03 16:04:13	192.168.4.45	2		
45	8	2008/03/03 16:04:13	2008/03/03 16:05:13	192.168.4.45	2		
45	9	2008/03/03 16:05:13	2008/03/03 16:06:13	192.168.4.45	2		
45	10	2008/03/03 16:06:14	2008/03/03 16:07:14	192.168.4.45	2		

図 3.6.2-3 測定結果画面 汎用通信データ送信元IP測定結果

NO	項目名	目的および操作方法
32	No.	測定対象のノード No 。表示のみ。
33	回	測定回数(回目)。表示のみ。
34	測定開始日時	この回の測定を開始した日時。表示のみ。
35	測定終了日時	この回の測定を終了した日時。表示のみ。
36	IP1	対象の IP アドレス。表示のみ。
37	IP1 受信カウンタ	10 進数。表示のみ。
38	IP2	対象の IP アドレス。表示のみ。
39	IP2 受信カウンタ	10 進数。表示のみ。
40	IP3	対象の IP アドレス。表示のみ。
41	IP3 受信カウンタ	10 進数。表示のみ。
42	IP4	対象の IP アドレス。表示のみ。
43	IP4 受信カウンタ	10 進数。表示のみ。
44	IP5	対象の IP アドレス。表示のみ。
45	IP5 受信カウンタ	10 進数。表示のみ。
46	IP6	対象の IP アドレス。表示のみ。
47	IP6 受信カウンタ	10 進数。表示のみ。
48	IP7	対象の IP アドレス。表示のみ。
49	IP7 受信カウンタ	10 進数。表示のみ。
50	IP8	対象の IP アドレス。表示のみ。
51	IP8 受信カウンタ	10 進数。表示のみ。
52	IP9	対象の IP アドレス。表示のみ。
53	IP9 受信カウンタ	10 進数。表示のみ。
54	IP10	対象の IP アドレス。表示のみ。

【汎用通信データ送信元ID 測定結果の出力】

表示中の汎用通信データ送信元ID 測定結果を CSV 形式のファイルに出力します。

No.3 汎用通信データ送信元ID 測定が選択され、結果一覧に汎用通信データ送信元ID 測定結果が表示されている状態で CSV 出力ボタンをクリックします。

測定結果一覧 CSV 出力画面が表示されます。出力するファイル名称を入力、または選択して保存ボタンをクリックします。

表示されている汎用通信データ送信元ID 測定結果の内容が CSV 形式のファイルとして出力されます。

【測定結果表示の終了】

測定結果の表示を終了し、画面を閉じます。

閉じるボタンをクリックします。

測定結果画面を終了すると、測定画面も終了し、ノード検索画面へ戻ります。

3.7 最後にやること

3.7.1 設定ツールの終了

設定ツールを終了するには、メイン画面のメニュー「システム終了」をクリックします。

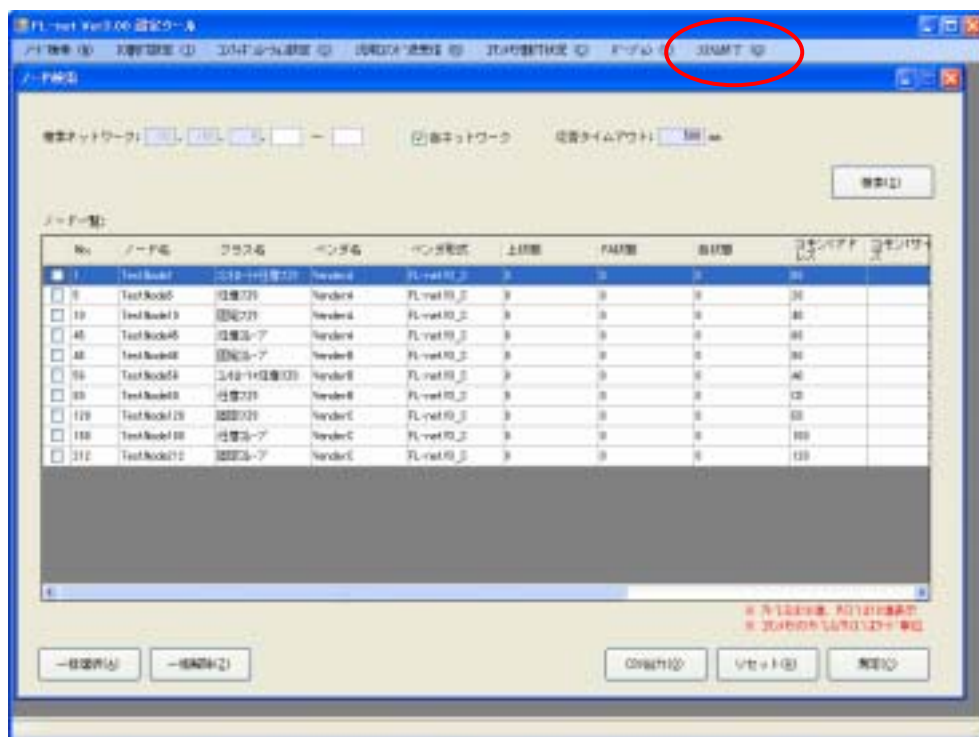


図 3.7.1 メイン画面

ただし、ノード検索・自動測定・I/O割付設定・コンフィギュレーション設定・汎用コマンド送受信の各処理が実行中だと終了できません。
設定ツールを終了する場合には、必ず実行中の処理の終了を確認してから実行してください。

手動測定は継続中でも設定ツールの終了が可能です。設定ツール再起動後、前回と同じノードを選択して測定を開始すれば、前回の状態に復帰します。

3.8 その他

3.8.1 バージョンを確認する

設定ツールのバージョンを確認するには、メイン画面のメニュー「バージョン」をクリックします。

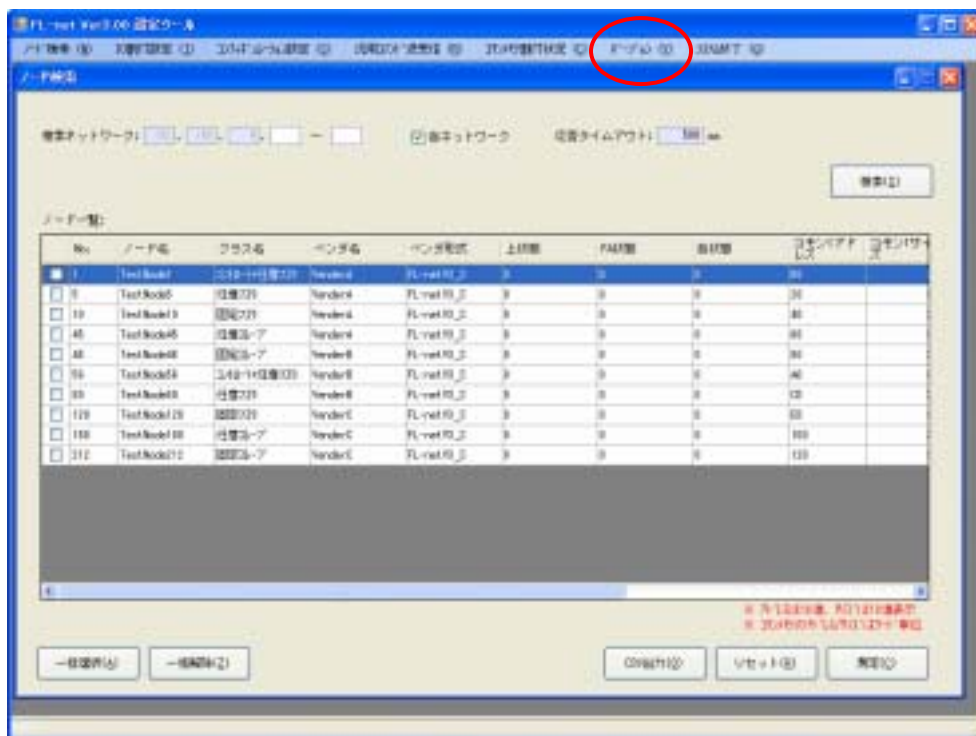


図 3.8.1-1 メイン画面

バージョン確認画面が表示されます。



図 3.8.1 バージョン確認画面

OK ボタンをクリックするとバージョン確認画面を終了します。

コマンド 一覧

コマンド一覧

NO	要求コード	応答コード	コマンド名称	送信データ有無	仮想メモリ使用
1	65003	65203	バイトブロックリード	-	
2	65004	65204	バイトブロックライト		
3	65005	65205	ワードブロックリード	-	
4	65006	65206	ワードブロックライト		
5	65007	65207	ネットワークパラメタリード	-	-
6	65008	65208	ネットワークパラメタライト		-
7	65009	65209	停止命令	-	-
8	65010	65210	運転命令	-	-
9	65011	65211	プロファイルリード	-	-
10	65013	65213	ログデータリード	-	-
11	65014	65214	ログデータクリア	-	-
12	65015	65215	メッセージ折返し		-
13	65018	65218	I/O割付設定		-
14	65019	65219	I/O割付読み出し		-
15	65020	65220	トークン保持時間測定開始	-	-
16	65021	65221	トークン保持時間測定終了	-	-
17	65022	65222	汎用通信データ送信元ID測定開始	-	-
18	65023	65223	汎用通信データ送信元ID測定終了	-	-
19	65024	65224	コンフィギュレーション用パラメータ設定		-
20	65025	65225	参加ノード管理情報パラメータ読み出し		-
21	65026	65226	自ノード管理情報パラメータ読み出し	-	-
22	65027	65227	自ノード設定情報パラメータ読み出し	-	-
23	65028	65228	ノードリセット	-	-

表 4.1 コマンド一覧

エラーメッセージ 一覧

エラーメッセージ一覧

NO	メッセージ内容	対策
1	続行不能な異常が発生した為、処理を中止しました。	ネットワークの接続を確認してください。または対象のノードがリンクされているか確認してください。
2	ノード No. XXX はコマンド 未実装の為、処理を中止しました。	対象ノードはコマンド未実装のため処理を実行できません。
3	検索ネットワークに値を入力してください。	ノード検索を実行するIPアドレスを入力してください。
4	対象のノード をチェックしてください。	対象のノードのノード選択チェックをチェックありとしてください。
5	対象のノード は 1 つにしてください。	ノード選択チェック チェックありのノードを 1 件のみにしてください。
6	ノード が見つかりませんでした。	ネットワークの接続を確認してください。または対象のノードがリンクされているか確認してください。
7	手動測定中ですが、前回と同じノード が選択されていません。 前回選択ノード No. : XXX, XXX, ... XXX 前回と同じノード を選択しますか？	「はい」を選択した場合、自動的に前回と同じノード が選択されます。「いいえ」を選択した場合、前回と同じノード は選択されません。
8	手動測定モード を強制解除してよいですか？ 各ノード に終了通知は送られません。	「はい」を選択した場合、現在選択中のノード で測定画面を開きます。「いいえ」を選択した場合、ノード検索画面に戻ります。
9	ノード リストにない為、前回と同じノード が選択できません。 手動測定モード を強制解除してよいですか？ 各ノード に終了通知は送られません。	「はい」を選択した場合、現在選択中のノード で測定画面を開きます。「いいえ」を選択した場合、ノード検索画面に戻ります。
10	応答タイムアウトに値を入力してください。	応答タイムアウトに値を入力してください。
11	I/O 割付設定画面、コンフィグ ルーション設定画面、汎用コマンド 送受信画面、メモリ割付状況画面の表示中は検索できません。 再検索する場合、各画面を終了してください。	対象の画面を終了してください。
12	ノード 検索は既に実行中です。	ノード検索終了後、再実行してください。
13	検索ネットワークの 1 番目の項目が範囲外の値です。 1 ~ 254 の範囲で入力してください。	1 ~ 254 の範囲で入力してください。
14	検索ネットワークの 2 番目の項目が範囲外の値です。 0 ~ 254 の範囲で入力してください。	0 ~ 254 の範囲で入力してください。
15	検索ネットワークの 3 番目の項目が範囲外の値です。 0 ~ 254 の範囲で入力してください。	0 ~ 254 の範囲で入力してください。
16	検索ネットワークの 4 番目の項目が範囲外の値です。 1 ~ 254 の範囲で入力してください。	1 ~ 254 の範囲で入力してください。
17	検索ネットワークの 5 番目の項目が範囲外の値です。 1 ~ 254 の範囲で入力してください。	1 ~ 254 の範囲で入力してください。
18	応答タイムアウトが範囲外の値です。 100 ~ 30000 の範囲で入力してください。	100 ~ 30000 の範囲で入力してください。
19	スレーブ No. XXX の I/O 入力アドレスに値を入力してください。	対象スレーブの I/O 入力アドレスに値を入力してください。
20	対象のスレーブ をチェックしてください。	スレーブノード選択チェックをチェックありとしてください。
21	対象のスレーブ は 1 つにしてください。	スレーブノード選択チェック チェックありのスレーブを 1 件のみにしてください。
22	マスタ情報のノード と同じノード は指定できません。	マスタノード以外のノードを選択してください。
23	既に登録されているノード は指定できません。	未登録のノードを選択してください。
24	スレーブ No. XXX の I/O 入力サイズ に値を入力してください。	対象スレーブの I/O 入力サイズ に値を入力してください。
25	スレーブ No. XXX の入力ステータスアドレスに値を入力してください。	対象スレーブの入力ステータスアドレスに値を入力してください。
26	スレーブ No. XXX の I/O 出力アドレスに値を入力してください。	対象スレーブの I/O 出力アドレスに値を入力してください。

NO	メッセージ内容	対策
27	スレーブ No. XXX の I/O 出力サイズに値を入力してください。	対象スレーブの I/O 出力サイズに値を入力してください。
28	スレーブ No. XXX の出力ステータスアドレスに値を入力してください。	対象スレーブの出力ステータスアドレスに値を入力してください。
29	スレーブ No. XXX の I/O 入力アドレス (I/O 入力サイズ) 入力ステータスアドレスが重複しています。	対象スレーブの I/O 入力アドレス (I/O 入力サイズ) 入力ステータスアドレスが重複しないよう入力してください。
30	スレーブ No. XXX の I/O 出力アドレス (I/O 出力サイズ) 出力ステータスアドレスが重複しています。	対象スレーブの I/O 出力アドレス (I/O 出力サイズ) 出力ステータスアドレスが重複しないよう入力してください。
31	スレーブ No. XXX の I/O 出力アドレス (I/O 出力サイズ) はマスタのメモリアドレス内にしてください。	対象スレーブの I/O 出力アドレス (I/O 出力サイズ) はマスタノードのメモリ範囲内に設定してください。
32	スレーブ No. XXX の出力ステータスアドレス (32byte) はマスタのメモリアドレス内にしてください。	対象スレーブの出力ステータスアドレス (32byte) はマスタノードのメモリ範囲内に設定してください。
33	スレーブ No. XXX の I/O 入力アドレス (I/O 入力サイズ) は自スレーブのメモリアドレス内にしてください。	対象スレーブの I/O 入力アドレス (I/O 入力サイズ) は自スレーブのメモリ範囲内に設定してください。
34	スレーブ No. XXX の入力ステータスアドレス (32byte) は自スレーブのメモリアドレス内にしてください。	対象スレーブの入力ステータスアドレス (32byte) は自スレーブのメモリ範囲内に設定してください。
35	スレーブ ノード間で I/O 出力アドレス (I/O 出力サイズ) 出力ステータスアドレス (32byte) が重複しています。	スレーブ間で I/O 出力アドレス (I/O 出力サイズ) 出力ステータスアドレスが重複しないよう入力してください。
36	スレーブ No. XXX はメモリアドレスが不明な為、アドレスのチェックができません。 続行してよろしいですか？	「はい」を選択した場合、処理を続行します。「いいえ」を選択した場合、処理を中断します。
37	スレーブ No. XXX, XXX ... XXX は現在認識されていないか、クラスがスレーブでないノード No. です。続行してよろしいですか？	「はい」を選択した場合、処理を続行します。「いいえ」を選択した場合、処理を中断します。
38	スレーブ No. XXX の I/O 入力アドレスの領域指定に値を入力してください。	対象スレーブの I/O 入力アドレスの領域指定に値を入力してください。
39	スレーブ No. XXX の入力ステータスアドレスの領域指定に値を入力してください。	対象スレーブの入力ステータスアドレスの領域指定に値を入力してください。
40	スレーブ No. XXX の I/O 出力アドレスの領域指定に値を入力してください。	対象スレーブの I/O 出力アドレスの領域指定に値を入力してください。
41	スレーブ No. XXX の出力ステータスアドレスの領域指定に値を入力してください。	対象スレーブの出力ステータスアドレスの領域指定に値を入力してください。
42	I/O 入力アドレスが範囲外の値です。 領域指定が 1 の場合、16 進値 0 ~ 1FF、領域指定が 2 の場合、16 進値 0 ~ 1FFF の範囲で入力してください。	I/O 入力アドレスの領域指定が 1 の場合、16 進値 0 ~ 1FF、領域指定が 2 の場合、16 進値 0 ~ 1FFF の範囲で入力してください。
43	I/O 入力アドレスの領域指定が範囲外の値です。 メモリ 1 を使用する場合、1、メモリ 2 を使用する場合、2 を入力してください。	対象スレーブの I/O 入力アドレスの領域指定に 1 または 2 を入力してください。
44	I/O 入力サイズが範囲外の値です。 領域指定が 1 の場合、0 ~ 512、領域指定が 2 の場合、0 ~ 8192 の範囲で入力してください。	I/O 入力サイズの領域指定が 1 の場合、0 ~ 512、領域指定が 2 の場合、0 ~ 8192 の範囲で入力してください。
45	I/O 出力アドレスが範囲外の値です。 領域指定が 1 の場合、16 進値 0 ~ 1FF、領域指定が 2 の場合、16 進値 0 ~ 1FFF の範囲で入力してください。	I/O 出力アドレスの領域指定が 1 の場合、16 進値 0 ~ 1FF、領域指定が 2 の場合、16 進値 0 ~ 1FFF の範囲で入力してください。
46	I/O 出力アドレスの領域指定が範囲外の値です。 メモリ 1 を使用する場合、1、メモリ 2 を使用する場合、2 を入力してください。	対象スレーブの I/O 出力アドレスの領域指定に 1 または 2 を入力してください。
47	I/O 出力サイズが範囲外の値です。 領域指定が 1 の場合、0 ~ 512、領域指定が 2 の場合、0 ~ 8192 の範囲で入力してください。	I/O 出力サイズの領域指定が 1 の場合、0 ~ 512、領域指定が 2 の場合、0 ~ 8192 の範囲で入力してください。
48	入力ステータスアドレスが範囲外の値です。 領域指定が 1 の場合、16 進値 0 ~ 1FF、領域指定が 2 の場合、16 進値 0 ~ 1FFF の範囲で入力してください。	入力ステータスアドレスの領域指定が 1 の場合、16 進値 0 ~ 1FF、領域指定が 2 の場合、16 進値 0 ~ 1FFF の範囲で入力してください。
49	入力ステータスアドレスの領域指定が範囲外の値です。 メモリ 1 を使用する場合、1、メモリ 2 を使用する場合、2 を入力してください。	対象スレーブの入力ステータスアドレスの領域指定に 1 または 2 を入力してください。

NO	メッセージ内容	対策
50	出力ステータス値が範囲外の値です。 領域指定が 1 の場合、16 進値 0～1FF、領域指定が 2 の場合、16 進値 0～1FFF の範囲で入力してください。	出力ステータス値の領域指定が 1 の場合、16 進値 0～1FF、領域指定が 2 の場合、16 進値 0～1FFF の範囲で入力してください。
51	出力ステータス値の領域指定が範囲外の値です。 メモリ 1 を使用する場合、1、メモリ 2 を使用する場合、2 を入力してください。	対象スレーブの出力ステータス値の領域指定に 1 または 2 を入力してください。
52	自動測定を行う場合は、測定サイクル、測定回数に値を入力してください。	測定サイクル、測定回数に値を入力してください。
53	測定する項目をチェックしてください。	トークン保持時間測定、汎用通信データ送信元ID測定 のどちらか、または両方にチェックを入れてください。
54	測定サイクルが範囲外の値です。 1～999 の範囲で入力してください。	測定サイクルに 1～999 の範囲で入力してください。
55	測定回数が範囲外の値です。 1～100 の範囲で入力してください。	測定回数に 1～100 の範囲で入力してください。
56	ノード No. XXX は測定中に異常が発生した為、測定を完了できませんでした。	ネットワークの接続を確認してください。または対象のノードがリンクされているか確認してください。
57	測定結果を消去します。よろしいですか？	「はい」を選択した場合、測定結果画面を閉じ、ノード検索画面へ戻ります。「いいえ」を選択した場合、測定結果画面を継続します。
58	ノード名に値を入力してください。	ノード名に値を入力してください(半角 10 文字)。
59	設定する項目をチェックしてください。	ノード名チェック、メモリチェック、トークン監視時間チェック、 最小許容フレーム間隔チェックのうちどれか、またはすべてにチェックを入れてください。
60	メモリ 1 アドレスに値を入力してください。	メモリ 1 アドレスに値を入力してください。 (16 進値 0～1FF)
61	メモリ 1 サイズに値を入力してください。	メモリ 1 サイズに値を入力してください。 (0～512)
62	メモリ 2 アドレスに値を入力してください。	メモリ 2 アドレスに値を入力してください。 (16 進値 0～1FFF)
63	メモリ 2 サイズに値を入力してください。	メモリ 2 サイズに値を入力してください。 (0～8192)
64	トークン監視時間に値を入力してください。	トークン監視時間に値を入力してください。 (1～255)
65	最小許容フレーム間隔に値を入力してください。	最小許容フレーム間隔に値を入力してください。 (0～50)
66	ノード名が範囲外の値です。 半角(英字、数字、カナ)で入力してください。	半角(英字、数字、カナ)で入力してください。
67	メモリ 1 アドレスが範囲外の値です。 16 進値 0～1FFF の範囲で入力してください。	16 進値 0～1FFF の範囲で入力してください。
68	メモリ 1 のサイズが範囲外の値です。 0～512 の範囲で入力してください。	0～512 の範囲で入力してください。
69	メモリ 2 アドレスが範囲外の値です。 16 進値 0～1FFF の範囲で入力してください。	16 進値 0～1FFF の範囲で入力してください。
70	メモリ 2 のサイズが範囲外の値です。 0～8192 の範囲で入力してください。	0～8192 の範囲で入力してください。
71	トークン監視時間選択が範囲外の値です。 1～255 の範囲で入力してください。	1～255 の範囲で入力してください。
72	最小許容フレーム間隔が範囲外の値です。 0～50 の範囲で入力してください。	0～50 の範囲で入力してください。
73	送信データが範囲外の値です。 16 進値 0～F、半角スペース、改行の範囲で入力してください。	16 進値 0～F、半角スペース、改行の範囲で入力してください。
74	仮想メモリ空間のアドレスが範囲外の値です。 16 進値 0～FFFFFFFF の範囲で入力してください。	16 進値 0～FFFFFFFF の範囲で入力してください。
75	仮想メモリ空間のサイズが範囲外の値です。 0～1024 の範囲で入力してください。	0～1024 の範囲で入力してください。
76	仮想メモリ空間のサイズが範囲外の値です。 0～512 の範囲で入力してください。	0～512 の範囲で入力してください。

NO	メッセージ内容	対策
77	No. に値を入力してください。	1～254 の範囲で入力してください。
78	入力した No. は現在認識されていないか、クラスがスレーブでないノード No. です。続行してよろしいですか？	「はい」を選択した場合、ノード指定画面を閉じ、入力した No. を IO 割付一覧にスレーブノードとして挿入します。「いいえ」を選択した場合、ノード指定画面を継続します。
79	No. が範囲外の値です。 1～254 の範囲で入力してください。	1～254 の範囲で入力してください。

表 4.2 エラーメッセージ一覧